



## 輝かしい新年を迎えて



宗谷南農業協同組合  
代表理事組令長 向井地信之

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、ご家族揃って気持ち新たに輝かしい新年を迎えられたこととご推察致します。

昨年中は、組合事業運営に多大なご支援、ご協力を頂き感謝申し上げますとともに、各関係団体、企業、町内外の多くの皆様にも事業をご利用頂いたことに厚くお礼申し上げます。

昨年は、1月1日に石川県能登地方において震度7を観測する「令和6年能登半島地震」が発生し、被災された皆さんの1日も早い復旧、復興の祈りから新年が始まりました。コロナ禍以前の日常を取り戻しつつ、円安でのインバウンド需要により、訪日外国人観光客の継続的な増加や、コロナ禍後の旅行需要の回復、さらには観光客の消費行動による経済活性化が予測され、経済が失速傾向にある日本国内において、インバウンドへの注目が高まっています。しかしながら、我々農業経営においては、国際競争などによる飼料・肥料をはじめとする生産資材、燃油の高騰、畜産物価格の下落と、今も厳しい酪農情勢が続いております。

11月に組合員懇談会の開催では令和7年度の営農計画作成の基本方針、上半期決算状況等の説明をさせて頂きました。乳価については単価が上がっておりますが、厳しい酪農情勢の継続で、各酪農対策支援が対策されましたが、今年は昨年同様の対策が見込まれないことから、次年度の営農計画書作成は、昨年以上に非常に難しいものとなっております。厳しい7年度末を迎えるものと推察しております。

そのような中、政府は25年ぶりに食料・農業・農村基本法が改正され、「良質な食料が合理的な価格で安定的に供給され、かつ、国民一人一人がこれを手でできる状態」とし、食料安全保障の確保を明記しました。畜安法については、「食料安全保障の抜本的な強化」、「環境と調和のとれた産業への転換」等の内容が盛り込まれ、生産者向け乳価を安定させ酪農産業を支えるとともに、消費者に牛乳を通年安定供給するための取組を様々な政策ツールを活用するとしております。

当組合の出荷乳量は、令和6年（クミカン等年度）5万2504トン前年比▲22トン、99.9%となりました。昨年は生乳生産現状維持からのスタートでもありましたが、平年並みの気候となり、安定した品質の粗飼料が確保出来ましたが、温暖化や気候変動等により、昨年もサルモネラ菌の発症や、1戸の新規就農に対して4戸の離農と、生産者戸数の減少もあり計画未達ではあります。1戸当たり農家の生産乳量増加もあり昨年並の生乳生産となりました。今後も生産者戸数の減

少は避けられませんが、この厳しい状況の中で、就農者誘致活動や技能実習生の利用も視野に入れながら農地を有効利用し、規模拡大や個体乳量増産を目的とした、農地・育成就労・就農対策室を設立し、現在乳量の維持に向け取り組んでおりますので、相談等がありましたら、営農部、農地・育成就労・就農対策室まで相談して頂ければと思います。

クミカン等については、個体販売の価格が下落し、国際競争や急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりが経営の経費を圧迫し厳しいものでしたが、乳代単価の上昇、事業支援となる国からの前年度の飼料・肥料の高騰対策事業、肥料購入支援事業の交付金等や、組合員皆様方のご努力もあり、厳しい酪農情勢の中、昨年同様のクミカン精算の状況となりました。

令和7年度の営農計画書の作成については、昨年同様費用価格の高騰と個体販売価格の低落到りにより厳しい組合員もおられますが、乳価につきましても、前年計画より単価は上昇しており、乳量については前年度実績を考慮し本年度生産可能な乳量計画でほぼ計画書の作成は完了しています。常日頃より経費節減を図って取り組まれているとは思いますが、更なる「節電・節水・節油」を念頭に置き、このような厳しい酪農情勢に対して一層の取組をして頂き、この苦境を乗り越えて頂きたいと思っております。

組合員の皆様には常に所得の向上のため、生乳の生産が基本であり、良質粗飼料の確保のための土地基盤整備、乳用牛の健康維持の

徹底が重要な課題と想っております。また農地の有効利用を行い、将来の強固な安定経営を目指すためにも、スマート農業への取組や、労働力確保の取組を同時に行い、牛舎新築・増築等の施設投資に取組んで頂きたいと願っております。

公共育成牧場につきましては、この育成牧場の建設趣旨である労働力軽減と枝幸町酪農・肉用牛生産近代化計画に基づいた生乳生産の増産を目的とした施設として、組合員皆様の趣旨ご理解の上、引き続きご利用頂きますようお願い申し上げます。

当組合の令和6年事業年度末まで残り2ヶ月を切りましたが、年度末収支見込につきましては、昨年並みの収益が見込まれる見通しですが、信用事業の収益に直轄する奨励金の通減により厳しい状況が予想され、かつ酪農経済についても厳しさは続いており、今後とも厳しい情勢が続くものと思われ、組合運営も次年度以降厳しい状況を迎える事と推察しております。今後も組合員の減少、定年退職等による職員の減少もあることから組合員のご理解を頂き、業務の効率化に向け対応をして参ります。

昨年は、第31回JA北海道大会が開催され、「食料安全保障の強化と持続可能な北海道農業の確立」、「JAの組織基盤の強化と健全な経営基盤の確立」、「アグリアクション北海道の推進による農業・食・JAへの理解醸成」の3つの議案を決議し、農業情勢は厳しい状況の中にあります。協同組合運動の原点である「対話」を通じ達成に向けて相互扶

助の精神に基づき、力強い農業と豊かな魅力ある農村を実現していくために、組合員とJAが一丸となり、生産現場の行動変容と組合員の意思結集による農政運動、JA経営管理の業務効率化・生産性向上・所得向上に取り組む必要があります。

消費者に対してはJAグループ北海道統一の情報発信フレーズ「アグリアクション北海道」を浸透させ、「国消国産」の認知を広めて、今まで以上に農業・食に対する理解を求め安定経営を目指すことが重要と考えます。最後になりますが、まだ暫らく冬期間が続きますので病気、ケガ、事故に十分注意頂き、全組合員が常に前進する事を願い、この1年も皆さまにとって満足できる年となることを心からお祈り申し上げます、新年の挨拶と致します。

謹賀新年

本年もよろしくお願ひ申し上げます

宗谷南農業協同組合

代表 理事 組合長 向井地 信之

理事・総務 委員長 下山 勲

理事・業務 委員長 小野寺 俊一

理事・営農生産 委員長 吉田 明彦

理事・業務 副委員長 小林 政夫

理事・営農生産 副委員長 筒井 正道

理事 兼 参事 浜田 和幸

理事 兼 金融 共済 部長 竹内 浩文

代 表 監 事 平田 勝一郎

監 事 福井 金吾

監 事 寺前 吉幸

他 職員一同



## 令和7年の年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会  
代表理事会長 樽井 功

新年あけましておめでとうございます。組合員の皆様におかれましては、日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しまして、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の北海道農業については、春先から天候に恵まれ、各作物の生育は全般的に平年よりも早く進んでおりました。しかしながら、夏場は猛暑・豪雨による記録的な高温多湿の影響を受け、各作物等の収量および品質に影響が出た年となりました。

近年、気候変動等による自然災害の多発や栽培適地の変化、国際競争や急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりが農業経営に甚大な影響を与えており、農業・農村を取り巻く環境は一段と厳しさを増しております。

昨年には、四半世紀ぶりに食料・農業・農村基本法が改正され、現状に即した基本理念の見直しと、「食料安全保障の抜本的な強化」、「環境と調和のとれた産業への転換」等の実現が盛り込まれました。政府は、初動5年間を農業構造転換集中対策期間と位置づけ、施策を集中的に実行するとともに、今年3月に食料・農業・農村基本計画を策定するべく引き続き検討を進めております。JAGグループ北海道としては、食料安全保障の強化と持続可能な北海道農業の確立のために、農地の確保および適正利用の強化、食料・自給飼料等の安定生産・供給と環境負荷軽減の両立に取り組みながら、それを後押しする力強い政策支援を求めていくことが重要と考えております。

また、昨年は第31回JAG北海道大会が開催され、「食料安全保障の強化と持続可能な北海道農業の確立」、「JAGの組織基盤の強化と健全な経営基盤の確立」、「アグリアクション北海道の推進による農業・食・JAGへの理解醸成」の3つの議案を決議いたしました。

今後、議案の達成に向けて、組合員・JA・連合会が一丸となって、生産現場の行動変容と組合員の意思結集による農政運動、JAの経営管理の高度化やデジタル化の推進による業務効率化・生産性向上に取り組みんでいかなければなりません。

さらに、消費者の皆様には、JAGグループ北海道統一の情報発信のフレーズである「アグリアクション北海道」を浸透させるとともに、効果的な情報発信により、今まで以上に農業・食・JAに対する理解を深めていただき、JAGグループが提唱する「国消国産」の認知を広げてまいりましょう。

結びになりますが、本年は巳年です。巳（へび）は冬眠から目覚め地上に這い出すことから、冬に根をはった草木が芽を出し「新しい種子が生まれる」という意味があると言われ、転じて、巳年は力を蓄えていたものが芽を出す「起点」の年、脱皮する特性と併せ「再生と誕生」を意味する年だと言われております。

この謂われにあやかり、本年が北海道農業の飛躍の起首となること、皆様のご多幸とご健勝をご祈念申し上げます、年頭のご挨拶といたします。









